



園便り

2020年 7月 1日

園長 林田 睦子

子どもたちが楽しみにしているプール活動が始まります。楽しい思い出が出来るよう、安全に見守りたいと思います。2階クラスのプールは屋上にあります☆
ご家庭でも川遊びや虫採りなどに出掛けられ、夏ならではの経験もたくさん出来ると良いですね。

【7月の行事】

7日[火] プール開き
七夕

11日[土] 子育て支援
クッキング教室



7月の一口メモ

【海の日】

平成8年から国民の祝日として制定。
明治9年、明治天皇が東北地方巡幸の帰りに青森から汽船に乗り、函館経由で無事横浜に到着した日を記念。

《2階クラス対象》 体操教室・運動あそび参観の予定

体操教室参観 1回目 9月 9日 (水)・・・園庭

2回目 9月16日 (水)・・・園庭

運動遊び参観 1回目 10月16日 (金)・・・千早グラウンド

2回目 10月30日 (金)・・・千早グラウンド

※内容・時間など、詳細は決まり次第お伝えします。

※天候により日程変更もしくは中止となる場合もあります。

※保育園の駐車場は、使用できません。

お迎えについて

延長保育を申込まれていない方は、18時までには保育園を出るようお願い致します。
18時を過ぎる事が多い方は、月極の延長保育に申し込みされて下さい。

※短時間保育の方は16時までには保育園を出られるようお願い致します。

プール遊び・水遊びについて

7日(火)にプール開きを予定しています。
子ども達と一緒に安全祈願を行います。



1階クラスは毎朝、記載して頂いている個人記録のプールの欄に、『○・×・シャワー』のいずれかを記入して下さい。

2階クラスは健康チェックカードに、『○・×・シャワー』のいずれかをを記入して下さい。

2階クラスの保護者の方でカードへの記入を忘れた場合は、朝の視診の際、プールに「入れる」または「入れない」だけでも、直接職員にお伝え下さい。

なお、着替える機会が多くなりますので、全ての持ち物に大きく名前を記入してください。

- ★1階クラスはお部屋の裏庭でビニールプールに入ります。
- ★2階クラスは、屋上にあるプールに入ります。

プールに入った日は、プールバックを毎日忘れずに持って帰りましょう。

子どもさんと一緒に確認してあげて下さい☆

児童表の内容変更について

転職や転居等で、住所、電話番号に変更があった時は、各担任までお知らせ下さい。熱や下痢など体調不良の時、速やかに連絡が取れるよう、ご協力お願い致します。

感染症と動物食

テレビ、新聞、インターネットなど、情報という情報から新型コロナウイルスの地球規模での感染が広がっているようです。今のところ実体感なき感染というのが一般市民の率直な感想ではないでしょうか。ヨーロッパに何人かいる知人がいるので現地の様子を聞いてみたのですが、みんな揃って「自分たちの周りでは感染者はいない」と言っていました。

感染が広がってきているとはいえ、4月11日現在、日本での感染者数は7593人（人口約1億2000万に対して0.006%）、世界では約180万人（人口約70億に対して0.0025%）です。身近に新型コロナウイルスに感染した人を見かけることはまずないというのが確率論から言ってもうなずけます。とはいえ病院に多くの患者が押しかけたら世間で言われているような医療崩壊が起こってもおかしくはないでしょう。

新型コロナウイルスの問題の底辺にあるのが私たちの生き方ではないかと思います。身体の症状が出たら何でも病院に行くという姿勢では病気は治るべくもないのです。病は本質的には自分で治す以外にはないのです。自らの治癒力を免疫力とも自然治癒力ともいいますが、この力を信じて高める以外に、病は治らないのです。むしろ、病は身体を良くしようという働きで現れていますから、病という体の働きを邪魔しないことが何より大切なのです。

感染症が蔓延した歴史は枚挙にいとまがありません。天然痘は仏教伝来とともに大陸から日本に入ってきたとされ、奈良時代には平城京で大流行したといわれています。コロンブスの新大陸発見以降も様々な伝染病が旧大陸から持ち込まれ、先住民が壊滅的被害を受けたとも伝えられています。中世ヨーロッパがペストの流行で壊滅的状況に陥ったのも、主要国の都市同士で人の往来が活発化したところにアジアから菌が持ち込まれ、一気に広がったそうです。

今回の新型コロナウイルスの広がりも世界の交流が活発になり、世界がひとつになりつつある状況下で引き起こされています。私たちは国や都市、そして私たち一人ひとりが、様々な形でつながる開放系の社会の中で生きています。近年の歴史も開放系社会の構築そのものが歴史になっています。ウイルスを専門とする多くの学者は「感染症との戦いは開放系社会の宿命」と言っています。

人と人の交流は気の交流であり、それが濃密になれば血液の交流になりさえします。

開放系社会に暮らす私たちは、開放しても差し支えない、周りの人に振りまいても問題のない、そんな気を振りまかなくてはなりません。食養的に考えると気は血から生まれています。力（ちから）は「血から」といわれています。病原ウイルスが繁殖するような血液を持っていたら、開放系社会では社会全体の問題にまで広がってしまうことを新型コロナウイルスが教えてくれているのではないのでしょうか。

世界はひとつになりつつあります。先に紹介したように、ウイルスは生命の進化を促すものです。世界がより良く一つになるためにウイルスは働いているのではないかと思うのです。

病原ウイルスが繁殖するような血液は、身土不二という自然を無視した食生活から造られる血液ではないかと私は考えています。今回の新型コロナウイルスの感染が拡大している地域をみると肉食が多いのです。陰陽（無双原理）で見れば、陽性な人間と陽性な動物は結ばれないのです。生物学的には人間は動物ですから、植物に比べたら陽性です。その陽性な動物である人間が陽性な動物を食すことにはどうしても無理があるのです。感染症は動物食からの警告と言ってもいいでしょう。

月間マクロビオティック 6月号

磯貝昌寛の正食医学 第102回 「ウイルスと人間」

磯貝 昌寛